

【最終報】砂防施設で効果を発現！ 2年ぶりに発生した大沢崩れからの土石流をキャッチ

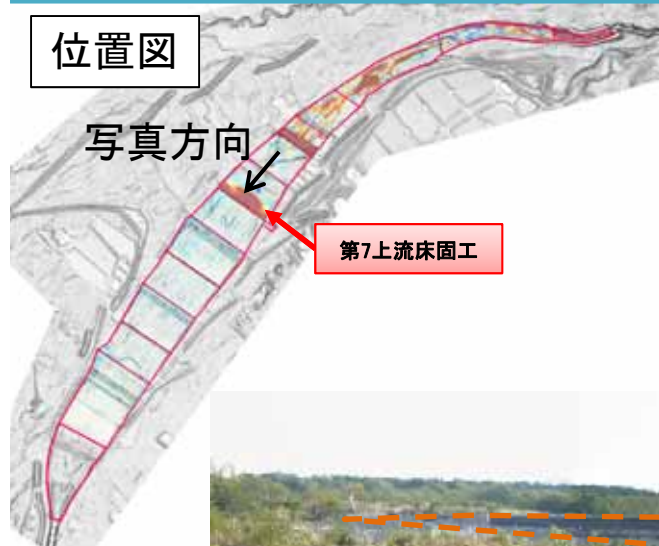
平成27年4月20日に発生したスラッシュ雪崩を起因とした土石流について、詳細な測量を行い、その土砂量等を明らかにしました。
(平成27年4月22日の【速報】発表 参照)



- 大沢扇状地にて、約5.7万m3の土砂を補足
- 土石流の堆積末端は大沢扇状地の第7上流床固工まで
- 下流への被害は無し

【最終報】 砂防施設で効果を発現！ 2年ぶりに発生した大沢崩れからの土石流をキャッチ

位置図



(4月20日 気象状況)

4月20日(月)は、南よりの風により、気温が上昇した上、大沢川上流の御中道観測所で降り始めから129mmの雨量を観測し、雪代(スラッシュ雪崩)が土石流となって流れ下っているのを17時頃に監視カメラで確認し、富士砂防事務所では、監視体制を強化していました。

2014/11/4撮影



2015/4/24撮影



大沢川遊砂地の第7上流床固工(上流側) 堆砂状況